

Ⅶ スギ材の効率的な葉枯らしシステムの開発

(実施期間：平成 29 年度～31 年度 予算区分：単県課題 担当：桐林真人)

1 目的

鳥取県産スギ材の原木価格向上のため、葉枯らしに要する具体的な期間や乾燥の状況、材色改善効果を数値化して、葉枯らし施業の取り組みを振興する。

2 実施概要

(1) 方法

智頭町宇波地内の 70 年生スギを対象に、次の条件で各 6 本ずつ葉枯らしに供し、乾燥の進行の差や材色を計測した。なお、乾燥状況は FAKOPP を使った斜め方向の定点間応力波伝搬時間 (SPT) 計測 (MM 法) による期首値との相対比較とし、材色は色彩計による定点計測とした。

- ① 伐倒方向による差…尾根向き伐採と谷向き伐採 (伐採時期は梅雨前)
- ② 伐採時期による差…梅雨前 (5 月末) 伐採と盆過ぎ (8 月末) 伐採 (伐倒方向は尾根向き)

(2) 結果

- ① 尾根向き伐採の方がやや早く水分減少する傾向が確認できた。
- ② 梅雨前伐採の方が、乾燥の進行が早いことがわかった。

この結果は八頭事務所主催の研修会で紹介し、参加者の理解を得た。なお、材色についてはまとまった変化を確認できなかったため、現在も別の試験体群で計測中である。

3 結果の図表と研究の様子

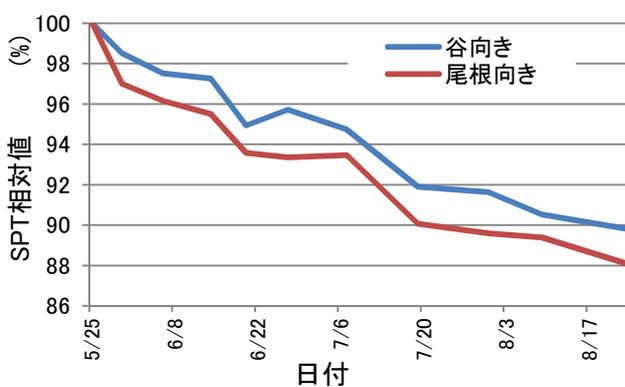


図 1 伐採方向による乾燥の差

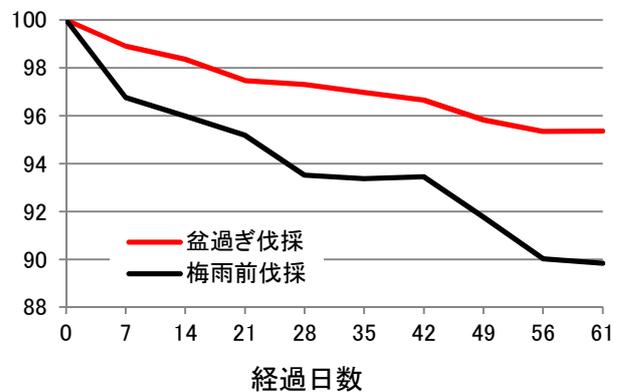


図 2 伐採時期による乾燥の差



図 3 SPT の計測状況



図 4 研修会の状況